

美術家で弘前大名誉教授の村上善男さん(盛岡市出身)が、「太陽の塔」をはじめ強烈な個性で親しまれた芸術家岡本太郎(明治四十四年—平成八年)にかんするエッセーをまとめた「赤い兎 岡本太郎頌」写真Ⅱを出版した。

昭和三十年、二科会の新運営委員となった岡本は、その年の二科展で、自ら選んだ作品を海外招待作家の作品と併せて展示する特別室を創設。当時花巻市で創作活動をしていた著者の作品が「太郎部屋」と呼ばれた特別室の展示作品に選ばれ、著者と岡本との交流が

始まる。岡本が日本各地を踊りや鬼剣舞の取材に同行した。見「では、岡本に岩手へ行くと進言、晩(し)いだ岡本の芸術への思いが、人柄をしのはせるエピソードを交えてつづられて。本書には、著者が師と仰いでいる。また、若き日の岡本の写真も掲載されている。

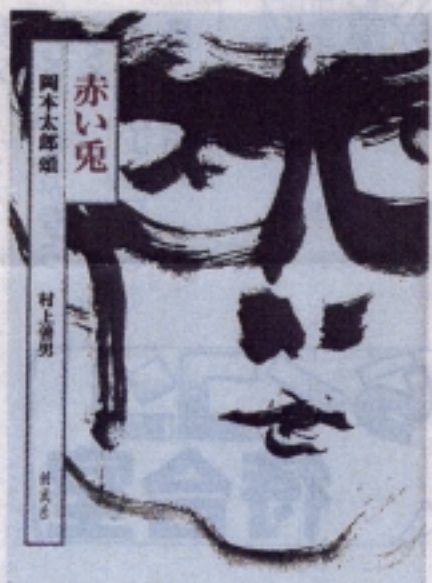
著者は、数多い岡本の業績の中で、絵画作品を除いたとし、それを縄文への挑戦だったのではないかとみる。著者が若いころ、上京して創作活動をしたという希望をもちたとき、岡本から「お前はそこで聞え」と言われたという。本書は単なるエッセーではなく、そこ、すなわち東北を拠点に、長年伝統文化と向き合ってきた創作を続けてきた著者ならではの優れた岡本太郎論になっている。東京都文京区本郷四ノ一七ノ二、創風社03(38)18)41611二、八〇〇円。

岡本太郎の縄文芸術観評価

弘前大名誉教授

村上善男さん

「赤い兎」出版



赤い兎 岡本太郎頌 村上善男 著